

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年8月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は、前月に比べかなり増加したものの、前年同月比では減少した。1月～7月の累計ではやや前年水準を下回っている。
	パン・菓子製造業	8月は昔から菓子の売れ行きが悪い月と言われている。特に今年の8月は猛暑続きで生菓子系が悪かった。
繊維・同製品	その他の織物業	業況、厳しさが増している。
	織物業	絹分野では信用不安による売れ行き悪い状況が続く中、日本文化の見直し、きものへの感心が高まりを見せ、需要拡大が期待されるが、多品種、少ロットの発注に終始し、また平成17年1月1日より絹織物の輸入が自由化され、これまで停滞気味であった中国和装生産が、再活発化の動きも見られるなど不安材料が多く、厳しい採算性で推移している。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細分織織物など差別化衣料で好調なものも点在し、提案企画品の注文があり、生産量増回復傾向はいくらか見られるようになってきているものの、強い低コスト要請や開発費の増大などにより、採算性の改善には至っていない。高度成長を続ける中国への高付加価値差別化織物の輸出が期待される。しかし国内衣料需要は依然として低迷が続き、当産地の業況は厳しさが続く見通し。新商品開発に伴う設備の改良は見られるが、新設備投資計画は極僅かなものになっている。
	その他の織物業	春物展示会に向けての準備に入っている。
	ニット生地製造業	前月比は盆休みがあったため、売上等は減少したが、景況の基調は変わらず。前年同月比は、前年が旧盆明けよりの回復が著しかった分やや下回っているといった状況である。
	その他の織物業	8月度は、前年同月に比べ36%の大幅な売上落ち込みとなった。今年は、7月から売上落ち込みが始まり、8月は谷底へと厳しい局面を迎えてしまった。組合員もこのような極端な落ち込みは過去、経験したことがないとのことである。今後、回復へと向かうのか予断を許さないのではないか。実態経済は想像以上に悪いのではないが。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	杉材の単価低迷による為、全体価格の低迷が続く。档材は例年同様夏季は出材量減少。
	製材業、木製品製造業	8月度は、依然需要が多く好調に推移している。平成6年に導入したプレカット第一号機が10年を経過し相当老朽化していて、来年の3月を目途に入れ替えの作業に入った。それによって工場の新築も必要になり、投資金額3億円の事業となりそうである。
窯業・土石製品	砕石製造業	8月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比生コン向け 23.6%、アスファルト合材向け 35.5%といずれも落ち込み、全体量では 25.1%減少した。組合として合理化を促進するとともに、組合員同士が集約化を検討しやすい制度の充実を計っている。
	陶磁器・同関連製品製造業	9月13,14日の見本市の企画内容も固まり、動員増を目標に動いている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、8月末現在で前年同月比約89%で、4～8月間の累計でも約81%と前年同月期に比べ低調に推移している。この厳しさは、官公需の減が大きく影響しているところである。
	粘土かわら製造業	8月20日過ぎから販売減少する原因として、台風が2度も日本海(能登沖)を通過し、その度に台風が過ぎるまで工事がストップとなった。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	日本の工作機械業界は、3ヶ月続けて1千億円以上(前年比30%以上アップ)の受注がある。当組合も工作機械関連が多く、全く順調である。全体的にまだまだ活況である。
	鉄素形材製造業	鋳造資材の値上りが少し落ち着きを見せたところへ、ガソリンの値上りである。影響が懸念されるところである。銑鉄鋳物製品の値戻し、値上げも業界あげての要望により、ユーザーサイドに理解が得られ、平均10～20%の値上げが認められたところが多い。業況は、建設機械、工作機械等の活況に支えられ、前年度をキープしているところである。
	鉄素形材製造業	景況は緩やかに回復しているように思われるが、企業間においてその基調にも格差があるように思われる。従って、当工業団地内の各経営者は、景気回復の実感が薄く、先行きに対する不安並びに不透明感が依然として強い。(設備投資等の意欲が生じていない。)
	機械器具の生産	骨材の仕入れ単価の高騰が、今後何時まで続くかが問題である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年8月分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	引続き、製造業全般での好感感が感じられるものの、鋼材・石油などの原材料の高騰、入手困難の傾向が強まっている。このままでは、先行きの不安感を拭き去ることは困難視される。中国でのインフレ傾向歯止めによる引締め（又は引締めの緩和）がどの程度、どの業種で、という心配もあるように仄聞されている。一部、建設機械では売れ行きが好調時に戻りつつあるとも仄聞しているが、実態はつかめていない。中国現地企業での、特に都市部での電力不足が顕著化されており、今後のこの点での動向（先行き）も懸念材料の一つであろう。当組合現地進出企業での嘆きでもある。いずれにしても、業種によってまだら模様を呈している。国内では、一部企業で暑い夏の影響で儲かった企業（下請け）も見受けられる。
	機械金属、機械器具の製造	繊維機械関連は12ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっており、ここしばらくは厳しい状況が続くそう。一方建設機械や工作機械関連は高水準の生産を維持しており、生産力増強のための設備投資も盛況。鋼材の価格が高止まりとなっており、原材料費の負担が苦しい。今後の石油の値上げ影響が懸念される。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器業界の市場は夏枯れでもあるが、秋物の需要が見込まれなく、量販店も同じく販売の減少が続いており、市場は極端に悪化している。又、伝統漆器も依然として回復の兆しがなく、夏期の漆器全体が落ち込み、更に秋物の需要が見込まれない上に原材料の値上げがあって、採算性が極端に悪化している。外国の廉価な木製品も売れ行きが頭打ちで、量販店の落ち込みもあり販売の減少が続いている。全体に前年対比10%～15%減で、全国の漆器業界全体が低迷しており回復の速度が遅い。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	色々な数字を読んでも、経済活動は離陸しているはずであるが、小松における絹織物は、エプロンから滑走路までも進めていない。ただ、ここ数ヶ月は不要期ではあるが。化学繊維物は、健闘しているようである。
	農畜産物・水産物卸売業	水産物の需要減退と流通形態の変化により、仲卸業者の環境・経営は一段と厳しさを増しています。
	一般機械器具卸売業	6,7,8月と猛暑が続く、エアコンの販売が絶好調で、年間販売の50%の9000台達成できたようです。价格的にも昨年ほど値崩れせず推移したようですし、昨年の10%アップも確保できたようです。箱物（ビル、オフィス、工場の建物）は、相変わらず不況で値段の叩き合いが横行しています。住宅需要は、昨年並みであり活気がありません。9月から11月の商戦はかなり苦しい状況になり、今年の販売成績を左右することになりそうです。
小売業	燃料小売業	8月に入り、原油価格はロシアの石油大手ユコス経営危機、米国の原油在庫減少、イラク情勢不安、投機資金の石油市場への流入などの原因が重なり、「史上最高値を更新」する状況である。しかしセルフSSを中心として安値店で価格は軟化していたものが少し値を戻した。しかし全国的に見ると低価格のレベルで推移している。7月からの猛暑の延長と帰省客需要で多忙であった。9月に入るとともに仕切り価格の大幅アップが伝えられているので、待たなしで小売価格への転嫁が実行されると予想される。
	機械器具小売業	7月度の地域店伸びは111%、猛暑に支えられ、RA（150%）、冷蔵庫（120%）と大幅な伸びを達成。大型テレビ・DVDプレーヤーも好調で4～7月累計で101%と前年をクリアした。8月度も引続き猛暑とアテネオリンピックに支えられ、RA・冷蔵庫・大型テレビ・DVDプレーヤー等が好調に売れ、地域店では110%以上の伸びを達成できた。9月以降の反動対策が急務で、活発な催事が肝要。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	先月に引き続いての猛暑。売上高前年比増を期待したが、想いのほか暑さ続きで客数が伸びず、前年比若干のダウンとなった。夏物商品はメーカー・取引先（問屋）いづれも息切れ、手薄状況。初秋の初期導入のタイミングに苦慮した。
	鮮魚小売業	このまま推移すると、10～20年後には日本列島は亜熱帯との衝撃的な見出しが紙面に踊るほど、かつてない高温とそして雨を伴った常識はずれの大型台風が列島を襲った。我々食品業界も大きな影響を受けた。特に生鮮食品（鮮魚、青果）。比較的良かったのは、土用丑に乗ったうなぎの蒲焼等の販売成績。
	他に分類されない その他の小売業	兼六園の有料入園者数が前年同月比84%で、観光客の減少は7,8月と連続で落ちている。我々観光関連業種は苦戦です。
	百貨店・総合スーパー	8月の売上実績は159,469千円。予算費86.1%。前年比91.9%と5月から4ヶ月連続前年割れ。お盆の売上（8/13～16）でも、既存店ベースで96.7%という結果だった。部門別では、ファッション93.8%、服飾95.7%、生活雑貨87.7%、食品100.3%、飲食94%、サービス71%で、個店別では36店舗中9店舗しか前年達成ができなかった。買上客数は5%減、客単価も5%減であった。
	米穀類小売業	16年産新米が売り出された。新米取引価格は、全国米穀取引・価格形成センターで入札取引され、落札価格が基本となり、市場価格で決められる。不作の影響で高騰した前年同期と比べると、23%程度下落している。全銘柄の平均落札価格は、過去最低を記録した'02年産を下回り、最安値を更新した。古米在庫を抱えながら新米の先安展開に対応する業者、実勢の下げが進むほどに実質的な産損が大きくなる展開で、現状は厳しい。日本の主食である米の価格安定は、消費者にとっても必要である。

非製造業

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年8月分)

尾張町中物売上は押し目のワイルド。9月の底力に期待。

業	商店街	尾張町	猛暑・酷暑というほどにすさまじい暑さは、お盆をはさんでも一向に和らぐ気配はないまま。盆休みは、普通ならば帰省した人たちが町に繰り出すのに、それすらもない。観光名所である兼六園の茶店に聞いても、例年ほどの活況はないとのこと。さらに2回の台風上陸が、物的被害こそ少なかったものの、外へ出歩こうとする人々を留めた感があります。という一般的景況にも関わらず、やはり尾張町の店の多くは、顧客の姿があるのは不思議な感じがします。
	サービス業	旅館、ホテル	国外旅行はやや向上の途にあるが、今年の異常気象により国内でも宿泊産業は、温度差があるものと考えられる。石川県内でも和倉温泉は、能登空港の開港により全体的にはやや向上していると聞いているが、金沢市内では特に商品企画的なものがないので、8月は全体的に昨年と比べ、各旅館は非常に減少している。
旅館、ホテル		夏季レジャー観光地イメージの減退。オリンピック需要の反動(TV購入による支出増、海外旅行者の増加)。全体的には中小企業関係の景況感が依然として悪い。	
自動車整備業		継続検査対象車両数は、前年同月比5.6%減、前月比では35.8%減。新規登録車両は、前年同月比5.3%増、前月比では34.7%減で推移している。	
洗濯業		昨年比14%増加でした。一般クリーニング(ドライ洗い洋服、カッターシャツ等)、ホテル、旅館(シーツ、白衣)、病院関係(白衣、カーテン)とどれも売上増です。	
建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比10.8%増となった。内訳として、民間土木58.9%増、民間建築57.9%増で民間としては58.1%の増となった。公共土木21.4%減、公共建築65.6%増となり、公共としては5.7%の減となった。ここ2~3ヶ月は民間は前年度より増となっている。	
	鉄骨・鉄筋工事業	稼働率70~80%。お盆休みで稼働日数が少ないが、仕事量はそれなりにあった。地域間格差があり、能登が少ない。	
	板金・金物工事業	やや工事が増加しているが、今後10月以降の受注が少ない。	
運輸業	一般貨物自動車運送業	8月の地元建機メーカーは好調で、旧盆返上で稼働していたようであるが、建設関連の荷動きが依然として悪いようであり、軽油の高騰も含め、業界全体暗い雰囲気にも包まれた状況が益々続きそうである。	
	一般乗用旅客自動車運送業	相変わらず不況の中、中東の原油価格の高騰が続き、(今後も更に値上げが続く状況が)追い討ちを掛け、ますます先行き不安が増強されている。死活問題の中で背に腹は変えられず、違法駐車等で摘発される事業者が増加、罰金の支払い等逆効果で焦りが見受けられる。	
	一般貨物自動車運送業	記録的な猛暑の影響もあり、季節商品の荷動きが活発で売上は増加したものの、燃料の値上りからコストが増加し、収益状況は悪化している。軽油価格は9月1日より更にリッターあたり4円前後の値上げになる旨の通知があり、対応に苦慮している。	